

ある。僕はまだ一町と駆けないうちに、忽ち久米の姿を見失ってしまった。

十分ばかり経った後、僕は息を切らしながら、当時僕等の借りてゐた、宿の離室はなれに帰って来た。離室はたった二間しかない。だから見透かし同様ののだが、どこにも久米の姿は見えなかった。しかし下駄のぬいであるところを見ると、兎に角、帰って来てゐるのには違ひない。そこで僕は大きな声を出して、「おい、久米」と呼んでみた。するとどこかで、

「何んだ。」といふ返事があつた。けれどもどこにゐるんだか、矢張、見当はつかなかった。「おい、久米。」僕はもう一度かう声をかけた。「何んだよう。」久米ももう一度返事をした。今度は久米のゐるところも大体僕にあきらかになつた。僕は縁側伝いに後架の前に行き、「何んだってあんなに駆け出したんだ。」

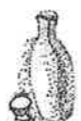
と言つた。僕の声は疑ひもなく多少の怒りを含んでゐた。すると久米も腹をたてたやうに、かう中から返事をした。「だって、駆け出さなくちゃあ、間に合はないぢやないか。」

爾来、七八年の日月は河のやうに流れ去つた。僕はもう何時の間にか額の禿上るのを嘆じてゐる。久米も、今ではあの時のやうに駆け出す勇氣などはないに違ひない。

これも「海のほとり」と同様に微笑ましい青春の思い出話であるが、この当時の彼は既に神経衰弱、痔、不眠症、脳疲労、慢性結膜炎その他の疾症にいたく苦しんでいたので、暗い彼の過去の時から、青春の思い出深き場所である一の宮を偲び、一服の清涼剤として書いたものであらう。一の宮は或は彼にとって唯一の人生の微笑の場所なのかもしれない。芥川がかつばのやうなとがった顔にほのかな微笑を浮べて書いている様が浮んで来る。その後二年を経た、昭和二年七月二十四日未明、三十六才を最後として田端の自宅でヴェロナール及びジャールの致死量を飲んで、自らの青春を断つたのであるが、これも夏である事を思えば、きつと、一の宮を、そのロマンスを、胸にしつかりと抱きしめていたように思われてならない。今も尚一の宮海岸は、当時と変りなく何にも汚されない、生まれたままの自然の中に、青春、芥川のロマンスを秘めて、絶え間なく美しき白波の音を響かせている。その響きの中に、イゴイズムのない社会を求め、イゴイズムのない愛を求め、神のような生まれのままの良心を触手として、余りにも醜く感じた社会を人、間を、自分自身をも否定したベシミスムな人間、小兒病的スタイリスト芥川の魅力が潜んでいるやうな気がしてならない。

若し今、芥川がこの世に生まれ変わって出現したとしたり、政治も、経済も、社会も、恋愛も、彼のいう周囲が余りにもイゴイズムだけで動いている現実を、封建的とは違つた民主主義現在の時元において、どのように又、眺めるであらうか。

方言集



編さん委員会

- 一、この方言は、一宮町で実際に使われている方言を集めたもので、他から移入されたものもあるだろうが、それははっきりしているものは除外した。
- 二、紙面の節約から、意味の同じもので発音の頭文字の同じものはなるべく併記し、また、その語が変化するものは「」をもってあらわしておいた。
- 三、同じ意味であっても発音頭文字の違うものおよび関連の言葉は普通語欄に片仮名で載せることにした。
- 四、この配列は五十音順とした。なお、一宮町内で旧一宮と東浪見では発音のちがうものがあり、この点おことわりしておく。
- 五、本方言集は、鶴沢長松、三枝栄松、長谷川秀治、長谷川八郎、船橋周治、中村康之、小高昇の諸氏の協力によつて成つた。

方言

(ア)

- アウンテンマエモン
- アカ
- アガット。アガリシナ
- アカメンチヨ
- アガルガイ(エ)ヨ
- アガン(ラ)ネケ
- アカンガベンカシヨ
- アギレ
- アキホヤエ
- アクセンスル
- アケ
- アゲツバナ
- アゴム
- アサツバラ
- アシイレ
- アシゴ
- アシット
- アシテマケレ
- アシモシヨツペモネ
- アジンシタ
- アジョンモカジョンモ
- アツイ
- アツサ

普通語

- 悪口のいいほうだい
- 船の底にたまつた水
- 家のあがりぐち
- すりむく
- 上がりなさい
- 上がらないか
- いやだ(こういつて人指ゆびで下まぶたを押え目をむきだして見せる)
- 指の筋の割れること(あかぎれではない)
- あきつばい
- 粗末にする
- 赤い
- 潮の上げだして来た時
- またぐ
- 朝
- 結婚式をしないで婚家へ仮入
- れをする
- 足跡
- どんな、どうした
- 手足まとい
- 味のない、面白くない
- どうした
- どうにもこうにも
- 小豆
- そうです(女の言葉、男は

アソシモン
アタケル
アッタテン
アッタリモン
アツパトツパメル
アテオツバ
アテ
アテンコテンネー
アナイチ
アーニ
アバタタネー
アーバナ
アバパン
アメゴ
アルキ
アワクウ
アマガ、アンテ
アング
アンサーネ
アンダ
アンダガン
アンチコッタ
アンテンネ
アンニヨリ、アンヨリ
アンバ
アンバソン
アンブリ
アンベ
アンボライ、アンボレ
アンメー
アンモ (ネー)

オッサという)
あそこの人
騒いであばれる
あつたではないか
惜しい、もつたいない
あわてる
私は(女児がいう)
なぜ、どうして
おさえどころがない
踏白のこと
呼ばれた時の返事で、なに
頭があがらない、人の下(アバ
とは、網の浮木のこと)
別れる時の挨拶、さようなら
一杯くわされた
甘え児
海中の魚釣場へ通ずる木製の足
場のこと。
あわてる
そうではない(否定の時にいう)
ひき蛙、がま
あのね
なんだ
疑問に思う
なんということだ
なんでもない
何より
海上の漁場
網の破れたこと
雨降り
あんばい
孔のあいてるさま
海中に入つて網をかつぐ人
なにもない

アソシモンガ
アソトネー
アソネ
(イ)
イイケ
イイケンガ
イイコッタ
イイデン
イイチバ
イイデレバ
イイツ(チ)バ
イイモン
イイセンベ
イエー
イエゴ
イエシッタ
イエノク
イ(エ)ケし、イ(エ)カイ
イ(エ)サバ
イサクサネー
イサシメー、イザンマイ
イシナゴ、イシナゴボン
イチバンカウ
イチロク
イッチェグチ
イ(エ)ッチャーオイ(エ)ネ
イップウ
イップウシン
イップクウ

あの者が
なんともない、無事
人に話しかける時、まづいう言
葉
よいか
よいけれども
よいことだ
よいではないか
よいというのに
生きていけば
よければ
よいもの
よいあんばい
結家のこと、隣近所手伝いあう
(エエー)
家の人に酷く他人にやさしい人
なんにもなくなる
強情者(エーノク)
大きい
魚の加工場
開放的で気がおけない
坐りかた
くるぶし、小石のことをインナ
ゴともいう、キサゴのから
その日の一番最初に引いた地曳
網
非常にぶぞろいで有ること
いいつけぐち
いってはいけない
一くせ
夢中になる、一図に
だまされる

イテライ
イ(エ)ナサ
イ(エ)ナシ
イビツタリ(レ)
イ(エ)ホイ(エ)
イレル
イロザナキ
イワ
イ(エ)ンガ
(ウ)
ウグシ
ウシ
ウーシ
ウソツバラ
ウチンモン
ウツセー
ウツケル(ウツトキヨロ)
ウツフレル
ウテ
ウーカ
ウナリヨバル
ウヌシナセ
ウラコケ
ウラツバズレ
ウラツベチヨ、ウラツポ
ウワツカブリ
ウシヨ
ウシタイ、ウシテ
ウシダラ、ウシラ
ウシマネー

人を見下げていう言葉
東南方
家の造り配置外観等のこと
坐ったまゝ少便をする。又は、
夕方太陽が夕焼をしないで雲
の中にかくれること
垣根竹を緒くときの結びかた
風の吹くこと
鰯が群をなして水の色が変わっ
ていること
網のおもり
いが(栗のいが)
屋根の頂
湿田の中で稲を束ねる台
おおし
うそ
家の人
うるさい
うるうるする
寒くて小さくなってふるえる
うとい、疎
畦道より広い農道
病気で苦しむ
そうだらうね
先端が細くなる
先端のかけたもの
先端、うらさき
重心の狂
骨をおる、苦勞
重い
おまえら
うまくない

(エ)
エー
エカバリデー
エタホシ
エツチエロ
エム
エーモドシ
エンダス
エンブリ
(オ)
オイ(エ)
オイ(エ)口(オエロ)
オイ(エ)ネ、オイネーヤ
オイ(エ)ネコッタ
オイ(エ)ネッキヤ、オイ(エ)ネ
ツバ
オイ(エ)ネーデン
オオザセ
オオデツパリ
オオマワリ
オカシツチャネー
オカマヲオコス
オキイレ
オキキナメニアウ
オキ(エ)ネツバ
オキモミ

結家(イェー)仕事を手伝い合
うこと
網干台
網を地面に拵げてはす
結びつけろ
果実が熟して割れること
結家もどし、先方から手伝って
もらったのでこちらからも手
伝いにいくこと
いぬ箱(箱)
穀類や土を平にならす道具
沖
起きろ、東浪見で七月七日朝行
なう祭の行事
いけない
いけないことだ
いけないれば
いけないではないか
陸地に近い所に起る最も大きい
波
よけいに手をひろげる
緩慢な、おうふうな
おかしなことはなかつた
再興する、再起する
沖から風が吹いてくる
ひどい目に遭う
起きなければ
備荒食料をモミのまま俵に入れ
てしまっておくこと

オセル
オセテ
オダス、オダサレル
オッカジメル
オッカフセ
オッカフセル
オッサ、オッサマタ
オツウ、オツエ
オツケ
オツガー
オツアレル
オツバ
オツバヤシ
オツビス
オツペナシ、オツコナシ
オツポリ
オツボン
オトッタ
オネコ
オーフー
オブツサリ
オボソダチ
オーヨ
オラゲ
オンカ
オンゴナシ、オンクサシ
オンジョー
オンノメス
オンベンカツギ
オンマス

押える、教える
おさえて、教えて
叱る、怒る
理屈をいってやりこめる
ばくち
他人に罪をさせる
そうだ
追いつく
沖合(地引網船の指揮者)
おれが
叱られる
言葉の終りにつける語。例「オ
メオツバ」は、おまえさんは
駄目になる
押す
悪くいう、悪口をいう
水溜り、小川や用水路の深くな
ったところ
食物を口にほうりこむようにし
て食べる
落ちた
同一年(同年生)
物にこだわらずまがよい
人に頼る、人の費用で飲食する
発芽したばかりの植物が生長す
るさま
そうだ
おれの家、自分の家
人の前で平気で悪口をいう
悪くいう、けなす
りこう者(小供にいう)
倒す
縁起をかつぐ人、御幣かつぎ
追いまわす

オンバク
オンボネ
オンゴナス
オンボヤキ
(カ)
ガイ(エ)ラ、ガイ(エ)ドン
カウス
カーエ
カエロ
カエツクロ
ガサツキ
ガシ
カシケ
ガシヨギ
カースンデタ
カーセル
ガタマ
カータリ
カタナグリ
カタツペラ、カテツポ
ガチャボコ
カッカエダス
カククラス、カツバル
カッセル
カツチャグル
カツツイテイル
カッテロ
カツパレ
カッパレ
カッパレ
カッパレ
カッポス(セ)
カッポリダス
カート
カナカナ

おおぼこ(植)
大骨折
財産を作る
物をじかにやく、火葬人
子供達
かくす
書け
かけろ、走れ
かけくらべ、走りっこ
落付のない人
いやしい
かしこい
大変に、大げさに、沢山
遊んでいた
書かせる
沢山に
勿体ぶる
全部、全帯
片一方
できもの、腫物
物を汲出す
なぐる
抱える
かきあげる
腹がへっている
癩病患者
乱暴な刈取をする
不漁
乾かす、ほす、やせた
ほうりだす
かかと
ひぐらし蟬

カナキリ
カナツンボ
カナジム
ガーナリ
ガバッチヨ
ガブクウ
カフチ
カフッタ、カフセラレタ
カマ
ガーマ
カマウ
カミ
カラキン、カラキツテ
カラツベタ
カラボー
ガリ、ガレツポ
カリ
カリコ
カーレル
カワイ(エ)ソギ
カンクリ、カンゴリ
カンクレ、カンクライ
カンジョ
カンダチ
カンテ
カンネ
カンバ
カンマゲル

表土の下の固い砂の層のこと
節約する
我を通す
自我が強い
水の中へおちて汚れること
株、財産
ごまかされた
水田の中で地下水が湧いて深く
なっている所又は藪の貯蔵穴
がま、又は崖の中腹の喰込でる
所
からかう、手を出す
隠居して分家した家に対し、本
家が呼ぶ
まるで、全然
へた、ごくへた
漁がなく仕事がない
やせた鳥
軽い
魚をかつぐために臨時に頼んだ
人
書かれる
かわいそう
寒中に張った氷
様子を見る
よい子(大人が子供をほめてい
う)
北の空に出る雲
高い額
食べられない
材木の背板、西瓜のかわ、水す
まし(虫)
折りまげる

カンメーリ
カンピントン
(キ)
キアセロ
キオル
キオリヤ
キゲル
キジリ
キタツバ
キタガヨイ
ギタギタ
キタゴチ
キダス
キチゲ
キツタンネ、キツタンダシネ
ギツチリ
キツシレレル
キツラブ
キドコネ
キナツタ、キネーケ
キフツセ
キフレ(キチゲ)
キューテ(テ)
キューナ
キリイ(レ)エツペ
キンコギリ
ギンナリ
キンニョ
(ク)
ガイチサブロク

神詣
やせこけている
聞かせろ
網を修理する
網を作る職人
実を結ぶ時期に天候が悪く実を
結ばずに徒長する
かまどのたき口
きたならば
居眠り
ひどい目にあう
北々東の風
狂い出す
手ぎね
汚ない
沢山
たかがしれている、たいしたこと
とはない
物の言いつぶしが悪い
ごろ寝
こなかつた、こないか
うるさい
気の狂った
魚籠
くいな(鳥)
全力を出す
煙草の葉を細く刻むこと
腹一ぱい食べあきた
昨日
おなじこと

タシヤンケツラ
 クスケル
 タツツポロ
 タツツジ
 ターダ
 クーチベ
 タチメズリ
 タツカウ
 タツチヤミ
 タデ
 タモアズ
 クリマワシガイイ
 タレ
 タレキージ
 タレエノケ
 タンメ母ロ
 タンピンヤンピン
 (ケ)
 ゲー
 ケエゲエシイ
 ケエツチヨ(ヤ)
 ケエネー
 ケエワレ
 ゲツゲ
 ゲネ
 ゲツウボーゲレ
 ケツキシトノボ
 ケーツテ
 ケーツタリ、ケーツタルイ
 ケツニホヲタテル

みにくい顔
 修理する
 あかはら(鳥)
 くづ(葛)
 甲羅、又は冷酷な人のことをい
 う
 口の上手な人、口先のうまい
 口のわざわい
 かみつく
 腹、がみがみ人にくいつく人
 屑、できの悪い品
 蜘蛛の巣
 暮しむきがよくなる
 黒い
 食意地の張った
 食べるだけ仕事をしない
 下さい
 なまいきでわけのわからない人
 無駄、無意味
 甲斐がほしい
 裏返しにする
 かなえない、(きこえない)
 貝われ
 小児のいう蛙のこと
 地引網を引く時魚を盗みにくる
 者があるのでそれを怒鳴りち
 らかすこと
 終り、しまい
 着物が短かくて尻がみえる
 むしろ、かえって
 ひだるい
 急いでにげる

ケーツボリ
 ケード
 ケブイ、ケブテー
 ケーヨ
 ケラトト
 ケール
 ゲレ、ゲレツボ
 ケンガ
 ケンガクル
 ケンガミエネ
 ケンケヤ、ケンケ
 (コ)
 コアゲ
 コウズナ、コウズナ
 コエー
 コエル、コエテル
 コクソツ
 コゲル
 コゲズナ
 コザウイ(リ)
 コザツテル
 コサギリ
 コザツパタイ(エ)
 コジル
 コシヨナル
 コツツパユイ
 コタンニアゲル

溝小川の水を払出して魚を捕え
 る
 垣内、入口
 煙い
 たべな、食べ
 おけら(虫)
 帰る、又は孵化すること
 一番終り
 言葉の終りにつける語でけれど
 もという意
 先触がくる(鵜羽神社の祭の神
 輿の先に剣を持った少年が駆
 けてくることから出たもの)
 病気がよくなる
 大便、大便所
 海岸で出来た干鯛を運びだす
 表土の下のあら砂
 こわい、ひだるい
 している
 駄目、使いたものにならない
 焦る、又は、寒くてこごえる
 小さいな貝殻の混った浜砂
 病気でねている
 腐っている、駄目になつて
 田圃や道路に出ている木の枝を
 きりとること
 最後まで居残る人(最後まで酒
 を呑んでる人)
 粉を白でつく
 助かる
 面はゆい
 相手にしない

コチ
 コチヤ
 コチヨクル
 コチベタ
 コチワレ
 ゴーチンケス
 コツコフ
 コツサ
 コツダイ(エ)、コツダケ
 ゴツダク(ウ)
 ゴツダクヌカス
 ゴツダバリ
 コツタネー
 コツバツバリ
 コツベ
 コツパ
 コナス
 コ(チ)ナツタコネーケ
 コネツクビ
 コバツコ
 コーベガイイ
 コーボシ
 コマブレ
 コーマンチヤクレ
 コビタリツク
 コビリ
 コフル
 コーラ
 コーヨ、コーイェー
 コーロ
 コロヘタ
 コワメ(ミ)シ
 コンガイイ
 コンクレケレ

半焼、半煮のもの
 午後三時の休憩の時の食物
 くすくす
 こちらがわ
 どこかへいってしまえ
 こねくりまわす
 こぶの上にまたこぶができる
 こそこそ、又は、まめに働く
 これだけ
 いくじなし
 ぼかなことをいう
 こればかり
 ことばない
 こればかり
 小賢しい、なまいき
 横腹
 悪くいう、消化する、処理する
 きなかつた、きないか
 くびがまがつている
 隅
 要領がいい
 こぼしほ(植)
 ぬれた地引網
 なまいき
 こびりつく
 船の縁
 子をかわいがる
 ここいら
 来いよ
 小石
 老巧な
 赤飯
 根気がある
 この位

コンブーロ
 コンモン
 コンヤロ
 (サ)
 サアーテ
 サアレゴム
 サアレスタル
 サイ(エ)
 サカサテツボ、サーサ
 サカシオ
 サーガラス
 ササル
 サイシ
 サタチ
 サツカエ
 サツセー
 ザツタラ
 ザツツイ
 ザツペー
 サツラゴエ
 サツラニキー
 サツラボシ
 サテ
 サナキ
 サナゲル
 サナツル
 サバサバ

小袋(米を入れて持って歩いた
 袋)
 この者
 このやろう
 天候が急変する「シユエーテ」
 よせあつめて入れる
 捨てておく
 さき、先端
 逆さま
 北から南へ流れる汐流
 かけす(鳥)
 酒を呑む
 ひさし
 植物が結実期に結実をしないで
 徒長してしまう、キゲルとも
 いう
 ひさし
 棒に物をかけて二人でかつぐこ
 と
 雑多な
 田植
 なになにのくせに、例、女サツ
 ペーは女のくせに
 表面が硬くなる
 面にくい
 顔、つら
 たま網(魚をすくい上げる時に
 用いる)
 鰯が群をなしていること
 混合する、全部をまとめる
 手さぐり
 よく乾燥したもの

サビイ
サマグチ
ザラサデ
サルゲオチル
サレウッチャル
サレ
サワシ、サカス
サンキレー
サンダ(ザ)リケス
サンドサガリ
サンポロメシ
(シ)
シイナ
ジガ(ワ)
ジゴ
ジド
シタジ
シタタウ
シタラガネー
シチウツセー
シツケル
シツコシガネー
シツタコッタネー
シツタビ
シツタリ
シツテアゲル
シツチヨウツテ
シツベ
シドメ
シネツバ
シノネ

寒い
出格子窓(古い農家の作り)
地引網の中の魚をすくう網
転落する
捨てる
干鰯など乾す時ひっくり返す道具
澁をぬく
大きらい
物をかき散しながらさがす
ひるさがり
米、粟、黍の混った飯
よく突のはいらぬいもの
肥えた土地の層
時、時間
地面
醬油
沢山
だらしがぬい
うるさい
稲をうるえる
意地がない
知らない
魚を捕える網
泥のついた
尻の方をあげる
背負う
人指ゆびと中ゆびの二本で他人の腕を打つ制裁
くさほけ(植)
しなれば
ちがやの芽

シバクネ
シバットリ
シバムシ
シビイ
ジビイ
シメシ
シメンニヤ
シモリ
シヤガル、シヤガレ
ジャバグチ
ジャミ
シヤリキレ
シュウチ
シヨータル
シヨッキリ
シヨネム
ジヨーパー
ジヨーパー
シラタ
シリツベタ
シレーノ
シロカケ(エ)
シワクタ
シンタク
シンノンゲ
(ス)
スイキヨ
スイツチヨン

芝の根の張った土(土留に使う)
在来鶏、地どり
納屋住いの人
澁い
地引網
いましめ
しまいには
管理
さがる、どく
口の大きな
地引網にかかった小魚の混ったもの
好き嫌いをする
前線の通過の際に天候の急変すること「サーテ」
満足なことができない
最初
ねたむ
農作物をたたく木製の杵
入口、門道
ぶしような女、ぶざまな女
雨雲又は、木の白い部分(赤味の無いもの)
尻の肉
白いの
田植前に田の土を砕いて平にならす作業
けちんぼ
分家
便所の紙
頼まれないことまで手を出す
馬追い(虫)

スエネ
スガキク
スクモク
スグル
スタタマル
スクンダ
スゲ
スケツト
スコエ
ススタツケ
スタル、スタツタ
スッテンデンゴ
スットコナ
ステッペン
スネクル
スベクル
スモ
スリキン
スリコンボ、スリボー
スルプスカゴ
スレガワリー
ズンドギリ
(セ)
ゼイゴモン
ゼイチヨ
セエメンバリ
セガネー
セグル

補充用に植えておく苗
気がきく、たちまわりがよい
太ったせいの低い人
藁のはかまをとり除くこと
かがむ
驚いた、縮んだ
藁を数本ずつ先端を結びつけ物をしぼる繩 代用するもの
手つだい
ポテフリの旧名(素越か) 生魚
売りが自家へも寄らずに急いで売りにあるくさまをいったものか
すばしこい
捨てる
ねて両足をばたつかせて恐るさま
肩すかし
最初に(高い所)
拗る、ぐずる
すべる
藁がら、すくも
すれっからし
財産をなくす
浜で魚を運ぶ大籠
性質がよくない
中段から切る
田舎者
小さいな稲束
独占する
沢山で入れ場がない
他人の土地を削りとる

セータ
セナ
セモセバタモネー
セメー、セペー
セーフーラクウ
ゼンゴ
センゼー、センザイ
センバンドリ
(ソ)
ソクタ
ソコネツ
ソーダ、ソーダトモ
ソーダダレ
ソーダツチバ
ソダチハ
ソツケー、ソツカー
ソツデ
ソツテン
ソツダツバ
ソツダバツバ
ソツバル、ソツプウ
ソツプウゲエリ
ソポクレタツ
ソラッピー
ソリー
ソレイ
ソロフウ、ソロビク
ソンソバ
ソンケゲレ
(タ)
タイ(エ)

咲いた
倅
足のふみいれ場がない
狭い
理屈をいわれる
銭、ぜに
野菜
椋鳥
人のいうことをきかない
根性
そのとおり
そのとおりだ
そのとおりだというのに
育つとき
そうか
それで
それでも
それならば
そればかり、それっぽち
引く
おこりっぽい
大きくなって人のいうことを聞かなくなる
とほける
播種後三十日目の田の祭り
葬式
引張る
そのそば
そのくらい
身のたけ(水中で立つ場合足が

タイヤゴヌ
ダイシゲ
ダーカンヨ
ダーモンガ
タカツチネ
タケジル
タケシコ
ダゴイ(エ)モ
ダアケンガ
ダス
ダタキ
タタクチク
タダッコ
ダダッピロ(レ)
タチライ(エ)
タツケタ
ダツダ
ダツダガン
ダツバ
タテイレ
タテメー
タネド
タマ
ダーモンガ
タラガル
タルイレ
タンケ
タンゴ
ダンデバ

つかない時タイがたたないといふ
苗代に種まきが終り田の神様に豊作を祈る時に供える焼米
大師様の日に作る粥で南瓜を入れる
それだからよ
だから
竹の根
たぐる
筍
里芋
であるが、だけでも
あげる、やる
粘土、石炭、ニガリを混ぜて固めた土地
たたき折る、またはなぐる
ただ(只)
非常に広い
気の狂った人
田の縁
誰だ
誰だか
それならば
干鰯を俵へ入れること
上棟式
種籾をつける水溜
魚をすくう網
それだもの
余分な手出しをする
結納
田貝
肥桶
墓地(二宮ではデンデバという)

ダンツカ
(チ)
チイセー、チャツケー
チイチ
チエツテ
チゲネー
チツキ
チッコ
チッコバッコ
チツチ
チイッチャイ、チイッポケー
チツトバリ
チツトヤソツト
チバイ、チバエ
チバレ
チビタ
チヤオケ
チヤカレ
チヤセシカカリ
チヤツカリ
チヤツチャ
チヤラカス
チヤラスケ、チヤラコエル
チヤーラネー
チヤノコ
チヤクリント
チヤンガツテロ
チユウツクレ
チユウツバラ

沢山、山のように
ちいさい
おん鳥
連れて
間違いない
じきに
乳
にんどう(植)
小便(幼児語)
ちいさい
すこしばかり
すこしぐらいでは
唾液
患部のまわりがはれてるさま
地面
茶うけ
退る、どく
さがれ、どけ
貯蔵用の穀物を俵に入れて鼠の害を受けないように縄でぐるぐるまきすること
鉄面皮、厚顔
うぐいす(鳥)
茶化す
平気である
どかない
農家で茶うけに用いる煎米に味をつけたもの
きちんとすわる
どいていろ
中等の
恐る、腹をたてる

チヨウツケ
チヨココス
チヨココス
チヨチヨラ
チヨツケラケス
チヨツケ
チヨツダレ
チヨツバヤ
チ(七)ヨーマ
チヨトモン
チヨルナ
チヨシチヨ、チヨシチヨコ
チヨシトイ
チヨシボ、チシボ
チロリンゲ
チンチャツケー
チンドロサツケー
チンボツケー
チンチンボシカ
(ツ)
ツウダシ

酒のおかわり
だます
上手
おべっか
ごまかす
余分なくちだし
洗面器
便所
つぐみ(鳥)
施餓鬼
近寄るな
女蔭
丁度いい
男蔭
さじ
ちいさい
血まみれ
ちいさい
上等に出来た干鰯、食料にする

ツゲス
ツケハヤマリ
ツウ
ツツイレ
ツツロッコ
ツツッコ
ツナフイ
ツノッコ
ツバメ(ツバム)
ツバクラメ
ツポッコ
ツマガイ
ツルツテオク
ツンタマル
ツンナグル
ツンミテロ、ツンムエ
(テ)
デーコン
デーデー
デードコロ、デーードロ
デグロ
デゲリ
デサコー
デジメクサイ
デツケー
デビテビザレ
デビキ

重ねて行なう、二度使う
使い走りの雑用人夫
突く
稲の穂ばらみ期に穂の部分が水につかること
俵編みに使う縄巻き
苞
網ひき
角、突端
水をせきとめて溜ること、又は
燕
頭から雨にぬれる
昔のはだし足袋
もやしておく
だまる
突く
向いていろ、向け

ツウツミ
ツウツケル
ツウツケロ
ツウツツコ
ツウツツコ
ツウツツプス
ツウツベリゴム、ツウツベル
ツエツバ
ツクシンボ
ツキノワ
ツグルヒ

婚礼の家へ行き手を出して物をねだる習慣
稲むら
のせる、変種する
のせろ
相殺
伏寝、倒れる
はいる
強ければ
土筆(植)
臼で米を搗く時に臼の中に敷く
藁製の輪
翌日

テレン
テング(キ)
テングツバ

大根
だいたいみかん
台所、勝手
細い田のくろ
食べてすぐぬる
でしゃばり
手ぬるい
大きい
用水路掃除
市場で他人の品物を買ってそれをまた売りする
魚の呼売人の使う魚を入れる箱
おだげにする横棒
やつで(植)

テンコテンコ
 テンズル
 テ(テ)ンテ(テ)ンカラカラ
 テンツクテン
 テンデバ
 テンテンバラバラ
 テンペラク
 (ト)
 トアス
 トウジモネー
 トウソ
 トウロクビ(ベ)ヨ
 トウカエチャッター
 トラタテル
 トーサレル
 トシトリカゼ
 ドーシンボ
 トシトリモン
 トジラサル
 ドジロ、ドジロンケ
 トツツアル
 トッコ
 ドッチヨイ
 ドツテン
 ドツドロ
 トツバグル

水がすくなくなつたさま
 先がまるくなつてゐるもの
 片足を手で押え片足だけで跳ねる遊び
 裾の短い着物(ツンツルテン)
 墓地(東浪見ではダンデバといふ)
 各自勝手に
 自慢する
 髪を櫛る、とかす
 道理にあわぬ
 味噌を炊く時の豆の煮汁
 ぶらぶらする
 手あます
 戸を締める
 中毒する、日にトオサレルは日射病
 南西の風(冬に限つていう、大漁があつてよい年がとれるため)
 漁場で魚を盗むこと
 ごまめ(田作)
 もつれてほぐれない
 おはじきのような土製素焼の玩具
 物につかまる
 やんまといはが二匹つながつてゐるもの
 太った人
 どれでも
 泥だらけ
 外れる、時期を失う

トップシモネー、トッペンネー
 トバグチ
 トヒヨウキン
 トモモシル
 トヤス
 ドン
 ドンケツ
 トンゴ
 トンバ
 トンメラカス
 ドンヤツ、ドンモン
 (ナ)
 ナエハ
 ナカウド
 ナカマハギリ
 ナギ
 ナグサンボヤレ
 ナセ
 ナーセル
 ナタツケズリ
 ナツバ
 ナナ
 ナーナー
 ナーナル、ナーナガル
 ナーフネ
 ナマコイ
 ナベツルガエシ
 ナマッコ

途方もない
 入口、とぼぐち
 ひょうきんな
 むきをかえる
 失敗、又は、なぐる
 殿、又は、何処
 頭の悪い
 大桶
 脳の足りない、とんま
 とがらす
 どこの者
 泣き虫
 海岸の砂地(波打際ではない)に出来た水たまり
 仲間はすれ
 雑草や藁、枯葉等を田の中に積込で堆肥を作るもの
 ほうりだす
 仕事をす
 泣かせる
 みにくい顔をいう
 夏の間
 家庭を持つ能力のない人
 なれあい、談合
 なくなる
 小型漁船
 地曳網でとれた魚を売りあるく
 山の地境のきめかた、鍋づるをかえしたような形で向う側へ食い入つて境をたてるやりかた
 生のまゝ

ナラシ
 ナレーカゼ
 ナンゴ
 ナントバ
 ナンドリ
 ナンノガン
 ナンポアンテン
 (二)
 ニキー
 ニゲガイイ
 ニシガ
 ニシラ
 ニタモン
 ニネー
 ニラウ
 (又)
 又キー、ヌクイ、ヌリー
 ヌットマル
 ヌルリ
 (ネ)
 ネエル
 ネーカン
 ネーケ、ネーヨ
 ネコンゲツゲ
 ネコンボ
 ネチコネチコ
 ネベヤ(ネ)
 ネミー、ネフデー
 ネーモンネダリ
 ネンゲル
 ネンゲン

おだかけの天木
 北西風
 蟪(虫)
 墓地
 海がおだやかなんのため
 いくらなんでも、よもや
 にくい
 にぎやか
 おまえが
 おまえら
 にたもの
 担桶
 狙う
 暖かい
 温まる
 しめじ茸
 煮る
 あついお湯、佞奸
 ないか、ないよ
 あわゆき(植)あけび
 朝寝坊
 そばにくつついてゐる
 寝よう
 ねむい
 ないものをねだる、わからずや
 逃げる
 人間

ネンバラカス
 ネンブツチャー
 (ノ)
 ノウボチ
 ノキバ
 ノタクル
 ノダタンネー
 ノタンジニ
 ノツベジル
 ノメクシボウ、ノンメラカス、
 ノンメツテル
 (ハ)
 ハー
 バアクチク
 バアバ
 バイ、バエ
 ハオリキ
 ハガチ
 ハグル、ハグシル
 ハゲアタリ
 ハゲル
 ハシヤウ、ハシヤル
 ハゼツコ
 ハタエ
 ハタツ
 ハチ
 ハツカ
 ハツコ
 ハツサ
 バッター、バンナ
 ハナ

まだらっこしい口のきき方
 念仏堂
 砂原へ網を積みかさねる
 雀(鳥)
 よくないことをして廻りあるくのびられない、暮しがよくない
 行倒れ
 野菜をいろいろ入れて煮たもの
 棒の両端を尖がらして両端に物を差しかづく棒
 もはや
 口の合わないもの
 めん鳥
 驚いて発する言葉「あれ」
 旦那
 百足(虫)
 書誤る
 的中しない
 仕事をしかける
 乾燥する
 嘔吐
 畑
 仕事を始める
 相手の話に反撥又は拒否をする
 こと
 議論
 鷺の一種
 墓
 わな
 岬

フウリキ
 フゲタ
 フクチュー
 フジミナミ
 フウカウ
 フツカエル
 フツカツキモン
 フツクス、フッコスル
 フツサル
 フツセ
 フツタグル
 フツタス
 フツタテル
 フツタレル
 フツタレル
 フツトース
 フツチャガル(ゲル)
 フツチヨセル
 フツパク
 フツパドジョウ、フツバリ
 フテイ
 フテゲル
 フーライ
 フルカンケー
 フシヌイ
 フンメール
 (ハ)
 ヘエ
 ヘエツチコエタ
 ベケ
 ヘクソンモナラネー

様子の悪い、悪いかっこう
 馬鹿女
 析る
 西南風
 割る
 足をかける
 やっかい者
 こわす、こする
 おんぶする
 体力のない
 引たくる
 出す
 立てる、起す
 たらす、たれる
 突通す
 持ち上がる
 うち寄せる
 引きはく
 おたまじゃくし
 図太い
 すねて仕事をしない
 女の遊び人
 口物商
 足へ釘やとげを差し通すこと、
 又は、葉を小さく束ねない
 で大束にしたもの
 足へ着物などひっかけてあるく
 さま
 蠅
 骨が折れた
 だめになる
 なんにもならない

ヘーゼルモン
 ベタラク
 ヘーツバツタ
 ヘット
 ヘート
 ヘナヘナ、ヘナッコ
 ヘーレ
 ベンカシヨ
 ヘンキタ
 ベンコ
 ヘンモク
 (木)
 ホウエンチク
 ホウロクウエ
 ホウチヨ
 ホヘル、ホキル、ホヤス
 ホケー
 ホタルグサ
 ホツカ
 ホツカク、ホツカウ
 ホックリダシ
 ホッコツネー
 ホツゼ
 ホツチャリ
 ホーテンギ
 ホトメル
 ホーマシ
 ホラエ
 ホシギ

人並の仕事の出来ない者
 いっきりなしに
 衰退してきた、淋れた
 入り口
 乞食
 弱い人
 入れ
 いやだ
 せきれい(鳥)
 口先、議論
 約束を変える
 法師蟬「オーシンチク
 早天で水のない田に植元を掘っ
 て苗を植えること
 頭部のできもの
 繁茂する
 葬式に使う菓子を盛る器
 つゆ草(植)
 根株
 ぶっかく、割る
 急に出て来た、山出し、不馴れ
 な
 無愛想
 ぼろ
 こんもりしているものをいう、
 ポチか
 棒切れ
 はめる
 棒でなぐる
 いらだって、ほらという場合に
 いう
 まじり気ない、真正直な人

ハナアガリ
 ハナビシゲ
 ハナボウ
 ハネツケーリ
 ハミミラ
 ハヤサン
 ハラント
 ハリ
 ハンカモン
 ハンギ
 バグゲ
 バンコ
 ハンゴロシ
 ハンネクロ
 (ヒ)
 ヒエート
 ヒガフケネー
 ヒキメンタン
 ヒゲ
 ヒゲガナイ
 ヒゴモリ
 ヒシテ
 ビシヤチギリ
 ヒタテグチ
 ヒタチノカミナリ
 ヒータツケ
 ヒッコアシ

成功
 鼻の低い
 棒の先、先棒
 お転婆
 海岸近くの田(浜見田から変化
 した)
 気ばやい人
 妊婦
 ばかり、例「チャットバリ」すこ
 しばかり
 我意の強いもの
 狂人のような人
 晩方
 順番、又は料理番
 ぼた餅のこと
 一通融道しあう
 乞食(ハート)
 生活に困っている
 貸したものを返さないで他の物で
 返す
 変目
 虚弱、いよわい
 魚類が水がなくなると一箇所に
 集ってくること
 終日
 備社仲間の組、今の隣組のよう
 なもの
 額
 北で鳴る雷、当地にはこない
 平なもの
 道の草を結いておいて足を引懸
 けるようにするいたすら

ヒツジッポ
 ヒツチバコ
 ヒデーモン
 ヒトアタイ
 ヒナチヨコ
 ビビッシテヤレ
 ヒネリ
 ヒポトエ
 ヒヤシオ
 ヒヤササレ
 ヒヨカヨ
 ヒヨコスケ
 ヒヨットガラ
 ヒヨトタクレ
 ヒヨーヒヤクモン、ヒヨンゲル、
 ヒヨエツク
 ヒヨーロッパ
 ヒヤカシ
 ヒラビッテ
 ヒナナグル
 (フ)
 ファイカメエタカ
 ファイチヨワリー
 フウ
 フウタ
 フウワリー
 フウケル、フックルケル
 フウツラハラス
 フウテンガ
 フウラツバ

稲の刈株から出た穂
 小さい家(マッチ箱のような)
 ひどい人
 一食分
 若僧
 ひどくなぐる
 硬貨を紙で包みそれが出ないよ
 うにひねったもの
 紐解祝、七五三祝
 冷たい汐流
 入れ
 身体の弱い人
 ひよこひよこした人
 しっかりしていないもの
 冗談をいって笑わせる
 滑稽者
 やせてせいの高い人
 おどかし
 平らな
 強くいくこと
 たいしたことはない
 風評が悪い
 背負う、又は、祝をした費用が
 貰った祝儀のほうが多い時に
 いう
 肥料の与えすぎて従長するさま
 きまりが悪い
 倒れる
 腹をたてる
 恐ろしい
 足のふくらみ

ポシク
ホンコ
ポシタ
ポシボ
ポシボチ
ポシボンヤツ

(マ)

マイ、マエ
マエツテ
マガツト
マクジラレル
マシオ
マチヨニ、マチヨシ
マツカシ
マツテ
マネ
マビー
ママ
マユエ
マルク
マンカラ
マンガレ
マンタ
マンザラク

(ミ)

ミギリ
ミゴメル
ミットンネ
ミツナ
ミノテ
ミモン

盆にお寺に届けるもの
ほんぎ、ほんど
愚かな人
筒
玉
山奥の村

血統、血族
前のほう
曲り角
波にのまれる
南から北の方へ流れる汐流
ろくに、満足でない
気が狂う
まるで
大漁を知らせる目印
まぶしい
高い堤
大漁の祝
束ねる
言うことがみなうそ
馬蹴洗いの祝い、さなぶり
低脳
地震の時の唱えごと

右
苗代を作る時田の土を軟かくし
てならずこと
みっともない
魚のわけまえ、代
水口
見もの、見る価値のある

ミヨブタ

(ム)

ムグシル
ムクレル
ムサイ
ムシガツウ
ムラギンドン
ムリムテ
ムルグチ
メエマシイ
メエジヨ
メソツチヨ
メツカチ
メツタナオシ
メツビー
メホタリ
メンソ
メンバ

(モ)

モイエ (MOE)
モウレ
モゲ
モクサテ
モツテンネ
モヤンハヤサレル
モンジク、モンチウ

(ヤ)

たなご (魚)

潜る
恐る、立腹する
汚ない、むさくくるしい
腹痛
賄役のこと
むりやり
稲の穂の出だす時

いまいまい
芽
みそささい (鳥)
まぶたが正常でないもの
結婚式がすんでから祝にいつて
いう言葉
片目、又は、ひよどり (鳥)
目やに
太い木棉糸
食器

二人共同でやること
天候
子供をかわいがること
大きなすくい網
もったいない
なにもわからずに騒ぎだてる
もぐ
沼沢地

ヤアヘ
ヤエクロ
ヤエノク

ヤキゴメ

ヤダガル
ヤツケ
ヤツケ、ヤツコイ
オッサカゴ
ヤツトコサ
ヤツベ
ヤド
ヤナ
ヤネツケ
ヤーベ、ヤーブ
ヤメコメ
ヤンマシ、ヤーマシイ
ヤンモクレ
ヤンテイク
ヤンマオンチヨーケ

(ユ)

ユウジネエ
ユツカ
ユカバリ
ユバ

こい、きなさい

細い畔
人の言うことをきかないで勝手に振舞う
苗代に播いた種籾の残りを煎って粉がらをとりその米に味をつけて食べる
いやがる
やっかい者
やわらかい
魚を入れて担ぐ大籠
ようやく
やろう、仕事をはじめよう
屋根替
畑のふち、堤
身体の弱いこと
歩いてこい
やたら
やかましい、むづかしい、重病
人
無暗な行ない
歩いていく、雨のやむのを待つ
ていく
やんま (トンボ) つりをすると
き、やんまを誘う言葉、オン
チヨーケは尻を交すという意味か)

いくちがない
幾日、なん日
枕木の上に網をひろげて干すこと
風呂場

ユリ

(ヨ)

ヨ
ヨイトヨイト
ヨエマチ
ヨガイ
ヨカツベ、ヨツベ
ヨガンヨチウ
ヨーキタ
ヨゲ
ヨゴ
ヨゴタロー
ヨーシ
ヨージアミ
ヨソモン
ヨツチャバル
ヨーデー
ヨーナル
ヨーミロ
ヨリ
ヨレー
ヨエネトリ
ラッチモネー、ラツテンネー、
ラツテンコツテンネー

(ラ)

稔、又は、百合 (柱)

人を呼ぶときにいう
大漁で網いっぱい魚がかかったこと
前夜祭、宵祭
にがからい
よいだろう
一晩中
よく来た
洗いがい
徹夜の作業
鼻、夜遊のすぎな人
植た稲苗が枯れたりする場合、用意に補充用として植える苗 (スエネー)

昔、巻煙草のない時、煙草の葉を巻いてそれを薬でよじりとめ二種ほどに切つて、キセルに詰て吸った、その煙草の結び方をこ
ういつた
他人
集る
様子、みなり、病状
よくなる
よく見る
大漁
共同、又は、集会
田植の前日に取る苗
埒もない